

事業所名 グループホーム梅本の里

作成日: 平成 26 年 3 月 19 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	目標達成状況(任意)
1	33	終末期に向けた方針の共有と支援について、具体的な計画は作成していない。 現在は、重度化や終末期の在り方について、その都度家族と話し合い、事業所として対応できること、利用者にとって終末期を迎える最良の場所を決めている。	☆重度化や終末期の受け入れができる事業所(グループホーム)を目指す。	①看取りの指針等の具体的計画を作成する。 ②人材確保(介護職員・看護職員体制)を主に、看取りができる体制を整える。 ③協力医との連携をより密に図り、良好な関係を維持する。 ④スキルアップの為、研修会・勉強会には積極的に参加する。	未定	
2	4	運営推進会議に、家族・市担当者・包括職員・民生委員・法人評議員等の参加を得て、2ヶ月に1回開催している。 現在は、地域住民の出席ができる体制や工夫ができていない。	☆運営推進会議を有意義な機会とし、地域住民の理解と支援を得て、サービスの向上に繋がるきっかけとなるような会議を開催する。	①利用者家族の参加が一人でも増えるように、開催日時や時間等を工夫する。 ②利用者家族の知人や友人、近所の方を紹介していただき、会議参加の呼びかけをする。 ③地域行事に積極的に参加し、より交流を深め、会議参加の呼びかけをする。	24 か月	
3	23	思いや意向の把握について、半数の利用者に対しては、できるだけ希望に添った個別サービスの実施ができています。 しかし、思いや意向の確認ができない利用者には、思いや意向に沿った個別サービスの実施はできていない。	☆個別サービスを、全利用者へ提供できるようにする。	①利用開始前の生活状況(趣味・特技等)の把握をする。 ②利用者または利用者家族へ、暮らしの希望を聞き取り、思いや意向の把握に努める。 ③様々な場面で感じ取った気付きや利用者の反応を記録に残し、職員全員が利用者の全体像を共有し、サービスの向上に繋げる。	24 か月	
4					か月	
5					か月	

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。□  
 注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入して下さい。  
 注3) 外部評価結果の通知を受けた日から概ね30日以内に評価機関に報告して下さい。  
 注4) 目標達成状況は任意となっております。期限に定めはありませんので、適宜評価機関に報告して下さい。